



共同通信



2008年9月26日 146 (356号)

日本基督教団 西宮公会教会月報 〒662-0834 西宮市南昭和町10-22
TEL0798-67-4691 FAX 0798-63-4044、Email : koudou@gamma.ocn.ne.jp
<http://koudou.jp/> 振替01170-3-4901
ホームページアドレスが新しくなりました。

時代にふり回されるのではない 自分の人生を語ってほしい、
あの時 心を躍らせて生きた 自分の人生を語ってほしい、
後悔に 身をふるわせたこともある 自分の人生を語ってほしい、
笑い 泣き 歯ざしりをした 自分の人生を語ってほしい、
今日 こんな決意をしたという 自分の人生を語ってほしい

To tell the story 46 『我が家の昆虫物語』

ボクたちの青少年時代、駄菓子屋を兼ねたパン屋さんの店先にたむろしてこどもたちが夢中になったインベーダーゲームやミスターマリオなどなど。時代はめぐり、もう4、5年前になるのでしょうか、同じ現象がダイエーやミドリ電化のゲームコーナー前に繰り広げられはじめました。代表格は、昆虫キングとラブ&ベリーでしょう。うちの子も例も漏れず、どれだけ百円玉をそこにつぎ込んだか。今や専用ファイルに綺麗に整理されたカードが残るだけ。

そんな頃からだったように思います、上の子がカブトムシ、クワガタムシに興味を持ちはじめたのは。「ならば、本物をみせてやろう」と、暑

くなりかけた頃から幼稚園の帰りに門戸岡田公園の上のお墓に通うようになりました。きっかけは、「幼稚園で毎年、大きいドングリを門戸岡田公園の上のお墓に取りに行っているよ」と寿実さんが言ったその一言。「ピン！」ときて、「きっとクヌギに違いない」との読みでした。

はじめてオスのコクワガタを採った時には、一家揃って「バンザイ」ものでした。それからというもの、蚊の餌食になることも省みず、昼に夜にこどもを連れて行き、カブトムシ、クワガタムシ、時にはスズメバチともめぐり合い、そのワクワク感を少しは味わってくれたであろうと思っています。

小学校に入ると、近所のお兄ちゃんたちと連日繰り出すようになり、とうとう怒られて帰ってくる始末。それからは、「昆虫キング」が下火になるのと同じように、一時期のような熱中はしなくなりました。

でも、実は、我が子をダシにして、昔取った杵柄に火が着いてしまったボクの「虫捕り」熱はなかなか冷めません。去年など、園長先生、順子先生からの強い誘惑もあって、大枚叩いて「全国こども昆虫キャンプ」なるものにまで参加することに（今年はさすがに、「こどもだけ参加」に変更しましたが……）。そこでは、1万円もする捕虫網まで購入してしまいました。

さて、今年の我が家の虫物語ですが、去年から越冬したコクワガタたちとオオクワガタ、そしてカブトムシ、ノコギリクワガタの幼虫たちと一緒に春を迎え、それらがごそごそと起きだす（「啓蟄」とはよく言ったもので、ちょうどその頃でした）のと同時に、ボクのむずむずもはじまりです。せっせと幼虫たちの土を替え、5月末には蛹になり、6月には「土の中からこんにちは」。今年は夏の到来が少し遅かったのですが、「来た」となれば連日猛暑。夜な夜な甲山森林公園に懐中電灯と飼育ケース、そして長く伸びる網を持って出勤です。昼の間に見つけておいた「樹液の出ているポイント」5か所ぐらいをめぐ

るのですが、なにせ真っ暗な山道を懐中電灯の明かりひとつで歩くのですから、恐ろしい目に遭うことも。ある時など、目の前をイノシシが突進してきて……、しりもちをついたこともありました。でも、甲山産カブトムシが総計20匹ぐらい我が家の仲間入り。我が家で幼虫から成虫になったのが12匹。それに、夏の淡路島・平安荘で捕まえたのが10匹ほど。自然界というのは厳しいもので、弱いオスがどうしてもエサにありつけないので飼育ケースを別々にすると、カブトムシだけで20ケースぐらいになりました（つがいで1ケースという具合）。それに、クワガタのケースもいくつああって、それを積み重ねると、玄関横の靴箱の上は昆虫マンション状態です。エサ代もバカにならず、説明書には「毎日」とあるのを2日に1度。エサの取り替えには約1時間。でも、根っから好きなんでしょう、苦にはなりません。

今年の甲山、不思議に採れるのはカブトムシばかり。同じく甲山に通う藤田さんに聴くと、「クワガタ狙うなら、シラカシですよ」とのこと（すごい情報でしょ。あまり広めず、ここだけの話にしておいてくださいね）。確かに、シラカシはなかなかのものです。

そして今、夏の間我が家を楽しませてくれたカブトムシ、クワガタムシたちが、その寿命を終え、次々と死

んでいっています。

前の年の夏終わり、親から生まれ、卵から幼虫、蛹時代をずっと土の中で過ごし、6～7月に成虫になって土から出てきて、それから2～3か月を地上で過ごすカブトムシ。まるで人生の終盤の5分の1を「最後に人間さまにご奉公しようか」とでも言わんばかりに、わたしたちを楽しませてくれているようにも見えます。でも、人間の年齢に換算すると、寿命が80歳として、成虫時代というのは65歳以上といったところでしょうか、カブトムシにすれば「定年後の老後」といったところなのかもしれません。残りの5分の4は、実は人々に気づかれないところで営んでいるわけです。寿命が1年のカブトムシなら「5分の4」ですが、セミならもっとそれは長く、6～7年を人目につかない土の中で過ごし、地上にいるのは最後のたった5～10日ほど。そんなふうに見れば、土の中にいる虫たちの「現役時代」はきっともっとおもしろいんだろうなあに興味が

わいてきます。

それに、「人目につくのはほんの少しでいい」という人生訓も、虫たちから教えられるような気がします。

カブトムシの飼育ケースでは、親たちが死んでいく一方で、いま卵たちが孵って、小さな幼虫が土の中で静かにその営みをはじめています。

それをそっとしておくかのように、こどもたちの旬は、「まっかちん」(=ザリガニ)やトンボ、バッタに、そして数日前に迷い込んできたセキセイインコに移りつつあるようです。

寿実さんは、蝶の幼虫を見つけては、せっせと世話をしています。

ボクも、標本にオニヤンマやギンヤンマ、クロコノマチョウやオナガアゲハが並んだのをはじめ、カブトムシ、クワガタムシからちょっと浮気もはじめました。

(木村 知樹)

「人を殺しその血を身に負う者は死ぬまでのかわびとである。
たれもこれを助けてはならぬ」
(箴言 28章 17節)

人を殺したことに相当する刑について、古代社会（旧約聖書）の人たちは「命には命」（以下、歯には歯、目には目など・・・）と、明解でした（出エジプト記 21章 23～25節）。「人を撃って死なせた者は、必ず殺されなければならない」と明解であるものの、“人が憎むことをしないで死なせた場合”と、“ことさらに隣人を欺いて殺す場合”は、全く同じではないと考えていました（出エジプト記 21章 12～14節）。いずれにしても、人を殺したことに相当する刑は、「人を撃って殺したものは、必ず殺されなければならない」と、厳しいのです（レビ記 24章 17節）。

しかし、厳しいからといって人と人の罪をことさら憎んでいる訳ではありません。この国で、死刑判決が増え死刑執行が増えているのは、その人を憎みその罪を憎むということが過剰になっていることと無関係ではありません。

「人を撃ち殺した者は、必ず打ち殺されなければならない」と厳しい古代社会は、広く人に対する配慮を忘れてませんでした。「あなたは寄留の他国人を苦しめてはならない。また、これをしいたげてはならない」（出エジプト記 22章 22節）。「あなたが、共におるわたしの民の貧しいものに金を貸す時は、これに対して金貸しのようになってはならない」（出エジプト記 22章 25節）。これらは、その社会が憎悪をむき出しにはしない人との向かい合い方を選んだ結果です。ひるがえって、この国のこの社会は、人として向かい合うことでとことん貧しく、更に憎しみを増巾させることで、死刑判決を増やし、死刑執行を増やしているように思えます。

いつの頃からか、この国では犯罪に対して厳罰が求められるようになりました。たとえば、少年事件の場合にも、罰を科する年齢が引き下げられ、そのことに疑問をはさむ“余地”

さえない状況も生まれてきました。少年の犯罪の場合“動機”があったとしても“未熟”すぎて、それを問うことができないという判断で成人のように刑事罰を科さないのは、そもそも罰することが意味を成さないというのが理由でした。ところが、犯罪被害者の側に身を置くことが強く求められ叫ばれる中で、少年に刑事罰を科することがあたりまえになってきました。しかし、少年に刑事罰を科することで、少年に自分の犯した犯罪の事実を認めさせるのはたやすくありません。少年の犯罪は、彼が“未熟”であるが故に犯します。そして、未熟な少年をそうして犯してしまう犯罪も含めて育てているのは社会です。少年の犯罪の責任を負うのは社会なのです。大きな事件の大きな犯罪を目の当たりにする時、そのことに恐れおののくよりありません。そして、長い年月をかけたはずの裁判の下す判断が、ただ犯人を断罪するだけで、その事実と“全身全霊を込めて立ち向かう”意志と決意の結果であるようには見えなかったりします。20年の歳月をかけた宮崎勤被告の事件と裁判で、それが凶悪であったと断定する以外に記憶に残る言葉は思い浮かびません。死刑を確定する判決から2年余り、宮崎勤死刑囚の絞首刑が執行されました。そして、この事件のすべてが“終わる”ことになりました。もちろん、子どもたちの奪

われた生命のことでは、子どもたち自身はもちろん、残された家族にとって何一つ終わりになることはないはずです。悲しむことでも、悔やむことでも取り返しの付かない事実を、生きている限り引き受けるよりないのですから。

犯罪被害者の側に身を置くが故に犯罪者を厳罰に処することで、社会全体がそのことでの責任を回避しているように思えてなりません。どうであれ、あらゆる犯罪はその社会の真っ只中で生きる人が、その社会の真っ只中で引き起こします。だとすれば、本来社会はその結果の全てを引き受けるよりありません。犯罪者を裁くことは当然だとしても、何よりもしなくてはならないのは、社会がその事実と“全身全霊を込めて立ち向かう”ことであるはずは

「人を殺してその血を身に負うものは死ぬまで、のがれびとである、だれもこれを助けてはならない。」(旧約聖書 箴言 28章 17節)こんなことを書き残した古代の人たちが見つめていたのは、“人を殺す”ことでその人と社会が背負うことになる負い目と、“全身全霊を込めて立ち向かう”強い意志だったはずは

“人を殺してその血を身に負う”ことがそのこととして想像できれば、なかなかできそうにないのが“人殺し”のはずです。そして、殺した相手の断末魔の叫び声のことが想像でき

れば、なかなかできそうにないのも“人殺し”です。箴言はその結果の“人殺し人”を“だれもこれを助けてはならない”と突き放します。突き放すよりなかったからです。人を殺した事実に、全身全霊を込めて立ち向かうことをしない厳罰や死刑の執行が答えにはならないことを知っていて、古代の人はこんな箴言を書き残しました。

以上、「月刊むすぶ No. 451」（2008年8月 ロシナンテ社）の特集「今、立ち止まって死刑制度を考えてみませんか」に書いた文章の字句などを訂正の上転載させていただきました。

（菅澤 邦明）

夏休みが終わり・・・

ミンミン というセミの大合唱が園庭中に鳴り響いていた夏休みが終わり、幼稚園に子どもたちの元気な笑い声が戻ってきました。

久しぶりに会った子どもたちは、夏休みの話を次から次へと～。きっとそれぞれに楽しい夏を過ごしてきたんでしょうね～

さんぼさん、らったさん、ぼっぼさんの夏期保育の初日は親子でプールわらべうた 久しぶりの幼稚園に、久しぶりのプール、しかもお父さんお母さんと、ということで、みんなの笑顔が弾けたひとときとなりました。

そんな夏期保育の最終日は年長さんの淡路島での大冒険！！バスを降りた瞬間、目の前に広がる海に大興奮！！「ぼによがいるかも～」なんていっているお友だちもいました。その海に、みんなで手をつないで入ったり、「よいしょ～！よいしょ～！」のかけ声でカヌーをこいだり、淡路島の海を満喫しました！！そして、平安荘では、園長先生が準備された竹を自分たちで磨いてmy おはしを作り、できたてほやほやのおはしでおいしい園長ラーメンを食べ、一回り大きくなって帰ってきたのでした。

そして、お楽しみがいっぱいの2学期が始まりました 始まって1週間経った9日には「あつまれみんなの

ひろば」が芸術文化センターで行われました。他の幼稚園の子どもたちも集まって、2000人のコンサートになりました。この日、来てくださったのは、いつもみんなで歌や踊りを楽しんでいる新沢としひこさんと、ケロポンズ。知っている曲はもちろん、初めて聞いた曲でもノリノリのみんなでした。大人も子どもも楽しめる、素敵なコンサートでした。

19日に行われたおはぎパーティーには、200名近くのおじいちゃんおばあちゃんが参加してくださいました。その手には、それぞれ素敵な招待状が握られていました。この招待状は、各学年でデザインが違い、もちろんみんなの手作り！自分で作った招待状は、自分の手でポストに投函したのです。その招待状を手に来てくださったおじいちゃんおばあちゃんとおはぎを食べ、わらべうたの時間を過ごしました。わらべうたでは、 のおじいちゃん、のおばあちゃんではなく、みんなのおじいちゃんおばあちゃんになってもらい、子どもたちはいろいろなおじいちゃん、おばあちゃんとの時間を楽しんだのでした。

この日のおはぎは、お母さん方が作ってくださったもの。パーティー中のお手伝いもしてくださいました。

幼稚園の毎日、子どもたちとの時間は、おうちの方々や、おじいちゃんおばあちゃん、地域の方々、日々の生活で子どもたちが出会う人たち...多く

の方の支えがあって初めて進んでいきます。そんな方々に感謝の気持ちを忘れずに、これからの時間も過ごしていきたいと思います。

(山崎 由貴)

すずや便り

こんにちは。これからしばらく登場させていただくことになりました。よろしく申し上げます。さて私事ですが、9月末に主人の転勤で埼玉に転居することになりました。

振り返れば9年前・・・当時3歳と生後3ヶ月の子どもたち、主人とともに千葉から西宮へ来た私。関東平野しか知らず、日常的に山が視界に入る生活にホームシックになり、すっかり絵本「とんことり」の主人公気分になっていたものでした。

でも、パソコン通信(時代を感じますね)で公同幼稚園を薦めていただいていたお陰で、子どもたちは親から見ても羨ましい幼稚園時代を過ごすことができました。絵本、新沢さん、積み木・・・子どもと一緒に私も楽しみ、また素晴らしい先生方や友人達との出会いにも恵まれました。

また8年前からはじめたピアノ(メインは子どもです)でもパワフルな先生とご縁があり、そこからさらに新しい世界が広がっていきました。言うなればこの西宮で子育ての青春時代を過ごしたのです、それも最高の！！ついに見つけた安住の地～な

んて満ち足りた気分で長女の中学校の入学式に出ていたのはたった半年前。まさに、人生一寸先は闇。久しぶりの関東平野です。家を探しに行ったとき、空が広～い、と感じたのが印象的でした。

少しは成長したのか？9年前のような心細さはありませんが(寂しいけど)、子どもたちが自分の世界を持つ年齢に差しかかっているのが気になるところです。

この原稿が出る頃には引越しは終わっているでしょうか、終わらないにしても、もう少し落ち着いた気分でのいるかな。いろいろと不安はつきませんが、この原稿を書くことで少しでもさいたま生活のいいところを発見していけたらな、と思います。どうぞお付き合いください。

(富家 香麻里)

みかん便り

はい、はじめまして。河村高志です。今から14年前、この共同幼稚園で『らった』ぐみに通っていました。阪神大震災の為にそれから京都に移り住み、今年から愛媛の大学に通っています。大学生のほかにも、『関西京都今村組』というよさこいのチームで踊り子もやっています。

好きなことは『座ること』！嫌いなことは『動くこと』です、(~~~)

では、記念すべき第1号ですがいいネタがあまりないので、夏休みの思い出でも書こうと思います。夏休みといっても、今村組で全国各地に公演に行ったた以外は何もしてません(苦笑)寂しい夏休みでした(泣)

で、今年は遠征で9泊10日で熊本県上天草市に行かせていただきました。ここではとても温かい人たちが迎えてくださいました。温かい食事。きれいな布団。疲れを癒してもらおうと、海水浴・イルカウォッチング・バーベキューなどまで用意していただいていた。少しでも私たちに喜んでもらおうと、いろんなところに気を配っていただきました。遠征も終盤になって、ファイナルLIVE前日、スタッフの方の「わしらは自分らの子供と同じ世代のみんなが、誰も手えぬかずにがむしゃらにおどってくれてる事に1番感動するんじゃ。それを見た天草の子供たちにも何か感じてもらいたいと思って

る。」という言葉に、今村組というものの意味が少しわかった気がしました。自分らにできることと、これからもしていかないといけないことがわかりました。すべてが終わり、先生が言った言葉。「俺らは今回の熊本遠征にしる、毎年の札幌遠征にしる、優しい大人が周りにはいっぱいいる。でも、絶対に優しさに慣れたらあかん。忘れてもあかん。いつもその優しさを純粹に受け止められるような人間にならなあかん。」これが熊本遠征で学んだ1番のことでした。

人の気持ちを踏みにじるような行為はあかん。気持ちは思ってるだけでは伝わらん。気持ちが伝わったって相手に伝えることが大事や。

言葉だけで見ると当たり前なことやのに、実際行動に表すのはやっぱり難しい。天草の大人たちはそれを行動で見せてくださった。天草の大人は最高にカッコいい大人でした。

(河村 高志)

1995年1月17日の兵庫県南部大地震で住んでいた家が壊れ、京都府宇治に転居しましたが、河村高志君はずっと西宮に通い続けました。

7月のほしまつり、11月の公同まつりはもちろん、教会学校の“いきなり山登り”“淡路・平安荘ワークキャンプ”にも、公同子どもキャンプには参加者として、準スタッフとして、高志君の姿が見えないことはありませんでした。2008年4月から高志君は愛媛で大学生をすることになりました。2008年公同子ども能勢キャンプに愛媛から駆けつけてリーダーをした高志君と夜通し話し合っ、ノンビリ大学生ではなく、生きることを模索する青年のレポートを書いてもらうことになりました。

(菅澤 邦明)

2008年10月 あんなこと こんなこと...

- ・ 10月 1日(水) 早天祈祷会
- ・ 10月 1日(水) 幼稚園願書受付開始
- ・ 10月 1日(水)、15日(水) 聖書研究祈祷会
- ・ 10月 4日(土)、18日(土) 公文庫
- ・ 10月 8日(水)、22日(水) 読書会
- ・ 10月 9日(木) 浜田先生を迎えての勉強会
- ・ 10月 11日(土) 教会学校教師会
- ・ 10月 11日(土) 西宮共同教会カレンダー全体連絡会
- ・ 10月 14日(火) “第24回ゆっくりと聖書を読んでみませんか”
- ・ 10月 18日(土) 西宮共同教会カレンダー打ち合わせ

にしきた商店街...

- ・ 10月 5日(日) 津門川川掃除
- ・ 10月 7日(火) 西北活性化協議会
- ・ 10月 8日(水) 商店街役員会
- ・ 10月 14日(火) にしきた街舞台実行委員会
- ・ 10月 18日(土) にしきたLALALAミュージシャンコンテスト

アートガレージ

- ・ 火~金曜日:10時~17時 土曜日:15時~17時 開室日
- ・ 10月 7日(火)、21日(火) 丹波野菜市
- ・ 10月 18日(土) アートガレージ運営委員会
- ・ 10月 18日(土) アートガレージ500円講座 第一期「生と死を考える」全6回
第1回「生と死について考えてみよう!ワークショップ」
講師:榎本てる子(関西学院大学神学部)

関西神学塾

- ・ 10月 3日(金) 午後7時~9時 ヨブ記釈義(12) 講師:勝村弘也
- ・ 10月 10日(金) 午後7時~9時 使徒行伝を読んでみよう(36) 講師:桑原重夫
- ・ 10月 24日(金) 午後7時~9時 マルコ福音書註解(中)(52) 講師:田川建三

教会学校から

《9月の活動報告》

9月7日(日)

キャンプビデオ上映会 &
ソーめんチャンプルを食べよう

小学5年生以上の子どもたちが、ひらき・
まつりに射的の出店で参加しました。

9月14日(日)

けりゴマで遊ぶ

9月21日(日)

地域の方たちに遊んでもらう

9月28日(日)

投網で川魚捕獲大作戦!

《10月の活動予定》

10月5日(日)

お米を食べよう!

10月12日(日)

わなげ大会

10月19日(日)

幼稚園の子どもたちと遊んでもらう

10月26日(日)

作って遊ぶ

グアテマラ便り

こちらに暮らしていて、まずよく尋ねられるのは人口、国はもちろん、自分の街の人口は知ってて当然のように聞かれます。。そして宝塚市の人口を知らない私は、いつも「オォ～カヨコ～！」とあきれられているのですが・・・続いて聞かれるのは宗教についてです。日本はみな、仏教なのか？他に何かあるのか？そして、自身はどうなのか？といった質問です。

私は、今こうして公同教会に「遊びに行かせて頂いている」のですが、受洗していません。そして、我が家には仏壇があり、毎月浄土真宗のお坊さんが、来て下さっています。さらに、実は父方は神道のお家なので、田舎のお墓には宮司さんが来て下さるのです。

この教会との縁も、幼稚園が教団だったからですが、大学は仏教系・・・それぞれの一面を見る機会に恵まれていたおかげで、特に神道の話をするとうれいさを持ってくれます。この国の創世神話「ポポル・ブフ」はかなり日本の創世神話に似ているように感じます。

そして最後に「・・・で、カヨコは？」と聞かれると、ちょっとつまづいてしまいます。今はプロテスタントの教会に行くけれども、受洗し

ていないと話したとき、どのプロテスタント？・・・ああ。。

こちらでは、以前にも書いたと思いますが、エバンヘリコ（福音系）の一派が、大音量での音楽ミサをしていて、必ずしもプロテスタントに好印象がありません。この国に伝えられるようになったの自体は1970年代といえますから、仕方ないのかもしれませんが。答えられなかったので、ネットで検索。初めて知ったけれど、合同の団体だったのですね・・・（これをまた、どう説明したらいいのだろう・・・）

この国の8割はカトリック信者で・・・といっても、カトリックはスペインの侵略とともに伝えられ、半ば押し付けられた感もあるものです。地方の教会には、マヤの神聖や力のシンボル、ジャガーが主扉の一番上にいるかと思えば、柱にはカトリックのシンボル、ブドウがレリーフで飾られていたり融合した姿を多く見ることができます。

そうすることで、人々の生活に教会、カトリックを根付かせていったということです。

色もまた特徴のある、サン・アンドレス・シェクルという村の教会の写真を送ります。

・ ・ 写真は印刷でうまくできますか？ココの教会は特にすごいんですけど。クラスであちこち、自力では行きにくい場所にも行けるので、それだけありがたいなあ、と思っています。明日からは自然生態学です・ ・ ・ ・ 歴史は内戦などの複雑な問題もあり、本当にきつかった・ ・ ・ ・ 土曜に追試も残ってますが。。では、また！
どうぞ、みなさまゲンキに「お過ごしくださいね。

大切な贈り物・津門川 74

“津門川研究レポート”

夏休みの宿題に理科の自由研究があり、友だち3人で津門川について調べることにしました。その内容は、津門川の上流から下流までの生き物を調べるというシンプルなものでした。

実際に調べてみると、上流は関西学院の近くまであり、途中の坂がとても急なので自転車で上がるのが大変でした。(・・・疲)

上流の方はあまり生き物が生息せず、中流、下流に進むにつれ、コイ、ナマズ、フナ、カメ、カモ、サギなど色々な生き物に出会え、海の近くまで行くと、ボラの群れにも遭遇してしまいました。(驚！)

海まで出るには、今津をそのまま南へ行くと進入禁止区域になって行けなかったのですが、久寿川駅の方から南に行くと今津港まで行け

ました。そこから今津港に流れる津門川の水門を見ました。

この研究は、時間もかかり、真夏だったので暑くてかなり疲れましたが、身近な自然についていろいろと学ぶことが出来ました。

ちなみにこの作品、学校代表に選ばれて、「Web 理科・生活科作品展」のホームページに12月25日(木)から掲載されることになりました。(笑)もしも覚えていたら、見てみてください。

(高森 翔太)

閲覧の方法 総合教育センターホームページ

(<http://www.nishi.or.jp/homepage/sougou/>)

の「催し」欄にある「Web・理科・生活科作品展」をクリックする。

掃除のご案内

毎月第1日曜(雨天の場合は翌週の日曜日)に津門川の川掃除を行なっています。

参加する方は午後12時過ぎに幼稚園園庭に集まり、長靴をはいて川の中に入って掃除をするグループと、川沿いの道のゴミ拾いをするグループに分かれて掃除を始めます。幼稚園前から南に下っていったあたりからスタートし、171号線にぶつかるまでが範囲です。掃除が終わったら幼稚園に戻り、簡単な昼食をみんなで食べて、川掃除スタンプカードのハンコを1個押して終了です。スタンプカードは5つポイントがたまると、にしきた商店街で使える金券1000円と交換します。

次回の川掃除は10月5日です。

まいのなんでも案内

おはようございます。と始めると、あたかも朝8時に起きてゴミを捨て、トーストと紅茶とスクランブルエッグとサラダとヨーグルトの朝食を済ませ、洗濯機を回しながらパソコンに向かっているかのようですが、そのような事実は一切ございません。残念ながら。理想と現実は往々にして違うもので、今時計の短針が3と4の間にいます。お外は真っ暗です。外に出れば、空気が冬に近づいていることを教えてくれます。冬の夜の空は空気が澄んで高く綺麗に見える気がするので好きです。心なしか星も多くて、ああ、銀河鉄道はこんな空を走っているのかなあ、なんて想いを馳せるのです。・・・いえ、本当は研究によると『銀河鉄道の夜』は7月半ばぐらいのお話なんですけどね。まあ冬だったら川に行けませんし、落ちたザネリが助かるわけがありませんし。はあ。でも藤城清治の影絵の絵本のイメージだと、初夏でも納得いくかなあ、と思います。あの絵本は、数ある賢治作品の絵本の中でも圧巻の出来ですから。

はい、先日、神戸大丸で行われていた宮沢賢治展に行ってから、めっきり賢治がマイブームです。「絵で見る宮沢賢治展」、ということで、絵本に

治の描いた絵やら直筆原稿やらを中心とした展示でした。百貨店の展示会場にしてはなかなか見応えがあって、会場の造りも凝っていて満足いくものでした。

賢治の作品というのは語調も文体も独特です。NHK教育の「にほんごであそぼ」でも、よく使われているのですが、声に出すと心地良い。こうして文章を書くときに思わず真似したくなる、(けど真似てもそれは真似でしかありえないからしません)そんな文章。時々めっちゃくちゃ読みたくなるし、何回読み直しても飽きない。

話の内容は子ども向きではなくても、何処か画家の創作意欲をかき立てるのでしょうか、明らかに絵本としては多い文章量なのに、結構な数のものが出版されています。しかも有名な絵本作家さんのものが多い多い。というわけで、原画展は、絵本好きにとっては美味しいトコ取りでした。安野光雅と和田誠とスズキコージと伊勢英子の原画が一堂に会すって。特に伊勢さんは、最近絵本作家として有名になっていらっしゃるのですが、私は個人的に十年ほど好きなので、垂涎ものでした。私が絵として一番好きな挿絵画家は、ファージョンの挿絵をよく描いている、エドワード・アーディゾーニなのですが、

伊勢さんの絵はそれに共通するものがある気がします。ラフスケッチっぽい絵が好き。

で、話を賢治展に戻しますと、有名な短編で『やまなし』ってあるじゃないですか。「クラムボンはかぶかぶわらったよ」てやつ。蟹の兄弟が話してるやつ。あれについて以前、友達と「クラムボンて一体なんだ？」て問題でひとしきり盛り上がったのです。かぶかぶわらったり、死んだ（殺された）り。謎の生物（多分）クラムボン。泡なのか蟹なのか、賢治の創作物なのか。でも泡だったら何か綺麗だしイメージっばいよねって結論に至りました、そのときは。今考えても妥当だと思います。ところが、展示してあった彼の直筆原稿（下書き？）に、「クラムボンは 立ちあがってわらったよ」という一節があるではないですか。今、正式な『やまなし』では「はねてわらったよ」てなってる部分です。・・・え、クラムボンって足あるの？立つの？クラムボンが、クラムボンが立ったー！？（それはクララ）

ああ思いこみって恐ろしいですね。賢治がどういう意図で書き換えたのかは分かりませんが、どうやら、彼の考えていたクラムボンと、その70年後に読んだ子どもの考えたクラムボンとは随分違うものであったようです。ちなみに後日ネットで調べてみたところ、クラムボンに関する考察を詳しく載せたサイトがありまし

て、賢治作品の魅力を改めて感じ入った次第であります。やはり素晴らしい作品というのは時代を越えて楽しめるのだ、ということですね。ああまた賢治が読みたくなってきた。何か軽く読んで寝ます。おやすみなさい。（おはようで始まりおやすみで終わるって、ある意味正しいですよね？）

（高橋 舞）

つとがわ 編集後記

毎月の第2、第4水曜日の読書会で（現在は「自閉症」村瀬学、ちくま新書を読んでいる）『自閉症』がつきつめると言語や認知の障害を持つものだというのは、平たく言いなおせば、彼らがうまく喋れず、うまく考えることができない、要するに< ちえおくれ > ということと同義ではないのかと国家は考えた」の“国家”という言葉に、参加していた人たちは少なからず“・・・?”でした。

こんな場合の国家がピンとこないのは、日本“国家”に住んでいるはずなのに、たぶん国家が切実ではないからです。例えば“密入国”のアフガニスタン人が見つかってしまったりした場合、日本国家はそのアフガニスタン人の前に“国家”として立ち足はだかり、どうであれ存在を許したりはしません。実は、国家は“・・・???”だったりする人たちの前でも、大きな顔をしてはいるのです。例えば、後期高齢者医療制度、障害者自立支援法、診療報酬改定に伴うリハビリテーション医療の打ち切りなどの、法と法改定を進めているのは国家です。そのこと、即ち後期高齢者・75歳以上の、世話が焼けるだけの人への医療負担をこれ以上しないことを決めているのが国家なのです。同じように死刑制度を決めているのも国家です。全く同じように、そうして国家が決めているのが国民です。国家というものは“・・・???”だったりするのはまずいのです。

(K)

先日、崖の上のポニョを観に行きました。夏休み明け、この映画の話題で大盛り上がり！そしてポニョポニョとすぐに歌えるようになっていた子どもたちです。そんな子どもたちの姿に早く観に行きたい！！の思いが日に日に強くなっていました。「ポニョ、ハムだーいすき」と、今はポニョのマネをしたり～で盛り上がっています子どもたちの歌声とっても素敵ですよ！

(N)

幼稚園の畑に彼岸花が咲いています。彼岸花、マンジュシャゲ、この2種類の名前は知っていたのですが、実は600種類以上も呼び方があったのです！！その名前の秘密に魅せられて、「ヒガンバナのひみつ」(加古里子)という絵本を購入しました。普段何気なく眺めていた花に、こんなにも秘密が隠されていたなんてっ！と感激してしま

いました。これから大好きなコスモスやキンモクセイの時期。大好き、といいつつ、今まで眺めているだけだったので、今年はちょっと調べてみたいなあ...と思っています。今まで知らなかった何かに出会えるかも～

(Y)

先日、兄夫婦が家にやってきました。甥っ子ももう幼稚園の年長です。あまり人みしりとかなかったのに、その下の妹ときたら私を見るなりいつも大号泣。。。ただぐずってるのかと思いきややっぱり違うみたいでした。え？わたし？あんまり泣くから自分の部屋に退散！！あれ？泣きやんでる？結構ショックだったりして。。

次にあったら抱っこしてやるう～！暴れる？仲良くしたいのに～。ドキドキします(笑)

(I)

1984年入園した双子ちゃん、その一人が脳腫瘍とわかって、そして長い闘病の結果1986年8月に亡くなった。ここで一緒に遊んだ、輝いていたいのちがあった、そのことを忘れないために植樹されたのが南門のところの桜の木。植えられて10年位して花が咲き始めた。亡くなった後に誕生した弟を間に、ご両親で写真を撮っていかれた。桜の開花の時ではなかったのが残念だった。亡くなって22年、在園中も、そして孫たちが西宮を離れることになっても、その一人が亡くなってからも、ずっと共に心を寄せ、毎年じゃがいもを2箱かわらずに送り続けてくださった室蘭のおじいちゃんが5月にお亡くなりになられていたとのこと。今年のじゃがいもの箱の送り主のところをご両親の名前になっていて、一瞬胸が詰まった。

(J)